

月刊 サンエスウォッチング Vol.8

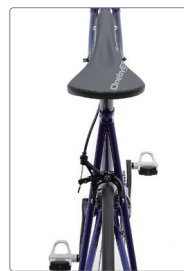
世の中になくサイズをつくる サドル〜クランク〜ペダル



月刊サンエスウォッチング Vol.2 にて紹介の「OnebyESU JFF#501 フレーム開発ストーリー」の中で書きましたように、シンプルな悩みを解決しようと始まったサドル〜クランク〜ペダル『三位一体』の取り組み。

『サドル・クランク・ペダル』の三点は、人間が自転車を前進させるエネルギー伝達の要。

三点と人間との違和感の無い関係が、無駄のないバランス感のある走行につながると考えています。シンプルな悩みを解決する・・・そのきっかけは「スムーズなペダリングをしたい」とのライダーからの要望から始まりました・・・三点の開発ストーリーを2回に渡り順を追って説明していきます。



サドル&シートポスト・・・30mm レール

ナロウサーティシリーズ誕生のきっかけ

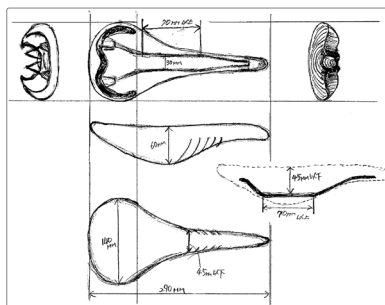
2007 年、当時 MTB XC、シクロクロス連覇などで大活躍していた「辻浦圭一選手（現 東京サンエス社員）」から、太腿を擦らないスムーズな回転運動を行えるサドルがないか・・・と、サポートメカニックを通じて打診がありました。少しのロスも見逃せないという、常に究極の状態や場面と対峙する選手からの要望を実現するためには、太腿が擦れる部分の幅を細くすることが解決に繋がるのではないかと考えました。

製作の過程

競輪界に特別細いサドルがあることを知りました。それはサドルレールが通常の 43mm ではなく 30mm と細く表面は硬いもので、座面全体も細くお尻を乗せると言うより当てる感触であり、約 3 分半のバンク競技である競輪に特化した製品でした。30mm レール用の専用シートポストもありました。これを辻浦選手が使用できる環境に応用できないか。つまり太腿が擦れる部分は細く、お尻を乗せる座面は通常のように広くしたサドルと、オフセットや径も豊富な 30mm 用のシートポストの開発です。

絵を描く中で、細身のサイド部分はスムーズさを求めシートポストボディ近くまで覆ったデザインに、また、先端は左右の内股を当てバランスをとるガイドとして縦に厚みを持たせようと考えました。

絵をもとに粘土での製作に至り、何度も粘土を削り盛りしながら実際にモックアップのままで乗車しつつ設計を進め、加えて既存のシートポストを活用できる 30mm レール幅用のクランプを 3 種類設計しました。



設計の始まりの絵。
しっかりした座面と狭小の対比が鮮明となっている。



粘土によるモックアップを作り何度も削り盛りを繰り返しカタチを煮詰めていく。

完成と実績

2008 年の秋にメンズモデル 2 種とレディースモデル 2 種、それに 3 種類のシートポストを発表。その後さらに最終の細微な設計を煮詰めて、3 年がかりの 2010 年 3 月によりやく発売に至りました。

早速使用した選手たちから、高回転でのペダリングのしやすさ、前後移動のスムーズさ、座面のホールド性による長時間走行での股周りへの負担の軽減、などの評価をいただくとともに、小柄な女性選手からも好評で、更にはジーンズなど普段着での乗車でも擦れの軽減が有効であるとの感想をいただきました。

体型はもちろん乗車姿勢や技術などによって使用感是人それぞれであり万能ではありませんが、スムーズなペダリングの実現に有効であることが実証されました。



左が通常の 43mm
右が 30mm サドル。
違いがよくわかる。

代表的な 30mm レール対応のシートポスト。
クランプの選択で通常の 43mm レールサドルにも対応。
現在ナロウサーティサドルは 8 モデル、シートポストはカーボン 5 モデル・アルミ 11 モデルをラインナップ。



初期モデルのナロウサーティスピード
メンは今でもシリーズの中で根強い人気。



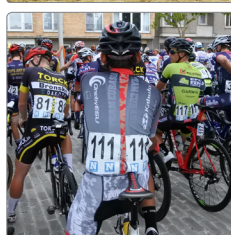
狭小幅なナロウと覆ったサイド
形状がわかりやすく個性的。



← 2010 年、全日本 CX で「スピードメン」
モデルを使用し 9 連覇を達成した辻浦選手。



↑ フランスでも活動する「ボンシャンス」。
全日本 U-15 で優勝しフランスの U レースでも
2 勝している竹内選手はサイドを削いだ「ソウル」
モデルを使用している。



← ベルギーを拠点とする「チームユーラシア
IRC」の花田選手は硬度の高い「スキニー」モデル
を使用し、すでに 25500km を走破。
「パワーが伝わりやすく高回転がスムーズでお尻
がしっかりホールドされる」と話す。